

さいたま市障害者協議会会報
第19号

あ・うん



九月二十一日、もう秋の風が吹いても良い季節なのに、この日はかんかん照りの夏日でした。

温かい声援に包まれて ふれあいスポーツ大会二〇一三

岩槻文化公園陸上競技場

着ぐるみに入った人の熱中症を気にしながら、ふれあいスポーツ大会二〇一三がスタートしました。いつもは気楽に観戦していた競技でしたが、今年は実行委員長として参加し、かなり緊張していました。

メイン会場はパン食い競争、紅白玉入れ、リレーなどを中

▲大漁旗をに走車

▼アショク隊の姿ほえ



又ウにかこまれて市長と渡辺実行委員長

心に熱気あふれるレースがあり、スポーツイベントとしては、ブライندサッカー、体力測定などが行われました。

お昼休みでは、ていだいサイ隊のアトラクションなどで楽しませていただきました。

中でも、最後に行われた学童クラブの小学校低学年のリレーはなかなかの見ごたえで、みんなを感動させるものがありました。市長も走り、子どもも走り車いすも走った楽しい大会でした。スタッフ、ボランティアの方々、有難うございました。

実行委員長

渡辺 浩二



感慨を新たに
十年を振り返る

さいたま市障害者協議会
第十回総会

平成二十五年六月十一日



平成二十五年、さいたま市障害者協議会は第十回の総会を迎えました。

平成十五年十月に市内六団体がさいたま市障害者連合会として設立総会を開き、平成十六年に改めて二十団体が加盟してさいたま市障害者協議会としてスタートしました。

スタート時に会長だった望月武氏は亡くなり、幾つかの団体は会員の高齢化などを理由



として退会せざるを得なくなりしました。

高齢化は避けて通れない現実ですが、行政からの支援もあり、また、「ノーマライゼーション条例」施行という追い風もあって、市民の方々の関心も強く感じられるようになりました。

まちづくり、防災訓練、市民のつどいなど、障害者協議会の出番がはつきり見えるようになってきたと感じられるようになって

ったのではないのでしょうか。

昨年の理事会では、協議会の法人化に付いて理事のみなさんに議論していただきました。

一時はNPO法人についての勉強会などもいたしました。よく掘り下げて考えてみた結果、法人格の取得は断念しました。

勉強しながら専門的な立場の方から指摘されたことは障害者協議会は「事業をする団体ではない」ということでした。

現在、行政の各種審議会などで委員を選出する時に、協議会に選出の依頼があります。障害の分野からの発言は欠かせないものになっていると感じています。一人ひとりの力は、ともすれば無視されてしまうものであっても、障害のある人の立場を守り、発言の場が確実に得られるように活動していくことが障害者協議会の役割ではないかと気づいたことが、一年間の役員の迷走の結果であったのではないかと思います。

事務局員もようやく定着し、縁の下の力持ちとして働いていて、初期のころを振り返ってみると感慨無量の感があります。

十一年目の成果をめざして、今日も新しい一日が始まっています。

会長 浅輪 田鶴子



真夏のような入道雲がムクムク…

さいたま市 合同防災訓練

炎上しそうな酷暑の中で さいたま市手をつなぐ育成会 加藤 シゲヨ

例年通りの九月一日、今年は桜区の荒川運動総合公園で開催されました。今年の異常気象のため、酷暑日ともいえるほどの暑い日の訓練で、朝の全体の整列、市長のあいさつ等は中止、見学の人もテントからなかなか出られず、体験コーナーを回ることも暑さには勝てず、自分の身を守るのが精一杯。暑さ対策で行政が用意して下さい



猫も、いや、犬もいやがるトタン屋根

ったタオルと水はあつという間に無くなり、想像を絶する暑さでした。障害者団体用のテントの前で実施した、倒壊した家屋からの人命救助は警察犬の奮闘ぶりが可愛らしく皆さん拍手喝采でしたが、警察犬も暑さのあまり足には可愛らしい靴を履かせてもらってはいたものの、さすがに日に当たる所やトタン屋根の上は拒否。後で行政の方から、今年は若年層に出席して頂く事に入れましたという説明がありましたが、確かに、子供さんや若い人たちが多く感じられました。とても良い試みだと思いましたが、もう少し涼しい日に出来たら良かったなど残念に思いました。

全国障害者スポーツ大会

スポーツ祭東京2013

第十三回全国障害者スポーツ大会が、平成二十五年十月十二日(土)から十四日(月)に東京都で開催され、さいたま市からは、選手団四十八名で六競技に参加しました。

十月十日(日)の出発式には、清水市長が出席され、応援のメッセージをいただきました。

大会期間中は、天候にも恵まれ、選手にとつてはよいコンディションで競技に取り組むことができました。

大会での結果は、金7銀8銅4のメダルを獲得しました。

実力を発揮した選手、もう一つ発揮できなかった選手がいましたが、全員がさいたま市のユニフォームに身を包



▲カラフルではなやかな開会式

▼100メートル走1位の佐土原博子さん(聴覚障害) 100m13秒16(大会新)



み、ベストを尽くしました。閉会式では、エグザイルの出演により大いに盛り上がりました。来年は、長崎県での開催、それに向けてしっかりと練習を積んで頑張ろうと選手、役員で意思統一し、選手団を解散しました。選手団を応援してくださった皆様有難うございました。心よりお礼申し上げます。

さいたま市選手団長 吉川 洋一
(さいたま市障害福祉課長)

あうんの呼吸・インタビュー

生きるための相棒です

猪瀬 剛さん・介助者 田村 智之さん



さいたま市障害者協議会の猪瀬剛副会長は、筋ジストロフィーの障害者で電動の車いすを使用しています。

田村さんは、ひと目で分かる北欧系の方で、七年くらい前から、介助者として常に猪瀬さんに付き添っている男性です。

仲の良い友達かきょうだいのようなお二人に、羨ましさ半分でインタビューをお願いしました。

インタビュー 浅輪田鶴子

僕は日本とスウェーデンのハーフです

—まず、田村さんご自身のことからうかがいます

田村 田村智之 三十一歳です。結婚しています。子どもはいません。父は日本人です。母がスウェーデンの国籍を持っています。僕はハーフですが、二十歳になると自分の国籍を選べるので、日本国籍を選びました。

—ビートルズのころ、父が中学生のころですが、外国人との文通がはやっていて、それが続いていたようです。



母も外国に興味を持っていたようで、父が学校を卒業したころ、ヨーロッパに遊びに行つて再会して、そのあとはよく分らないんですけど、ともかく母が日本に来て、一九八〇年に兄が生まれ、八二年に僕が生まれました。

幼稚園で「アメリカ、アメリカ」ってからかわれて泣いてました。あの頃、外国人はみんなアメリカだったんですね。

母は看護師です

—どうして介護の仕事をしたと思うたんでしょうね

もともと母は看護師で精神障害者の作業所で働いていたんで、よく見に行ったりしました。

僕は母を尊敬しています。

だから、障害に対する免疫があつたんですね。十八歳で高校を卒業してぶらぶらしていたら、ある団体に応募してみないかと言われて、アルバイトから始めました。

今は、NPO法人ライフアシストファミリッシュというところで、主として猪瀬さんの介助と、研修に関わったり、後は雑用とか勉強会とかいろいろですね。

体を鍛えないと続けられない

—奥さんは、お仕事は……
ちよつとだけしているようです。僕は社員ですから、き

まってる仕事、猪瀬さんの介助の他に仕事が入って来ることがあります。

結構肉体労働でもあるんで、体もきついし、子供がいらないから何とかありませんが、いたらヤバイでしょうね。

今は猪瀬さんだけに付いています、歳が行ったら続くかなあとは思っています。

そのジレンマはありますね。体を鍛えておかないとできませんから。

—猪瀬さんに聞きますね。田村さんとお会つてどうですか。

猪瀬 いいですね。かつこいいしね！
障害のある人を「個」で見られるのがいいですね。

僕らの気持ちをわかってくれる。

田村 猪瀬さんも僕も、マイノリティ
—どうしだからね。

猪瀬 一番信頼のおける人です。

田村 一人ひとりの、人として生きる人を支えることはできるけど、制度的なことって、ひとりでは変えていけないですから、今できることをできるだけ楽しくやるといふことですね。

スウェーデンはスウェーデン

—日本の福祉制度をどう感じていますか

田村 僕は子どものころから何度もスウェーデンに行っていたから、スウェ



このきっかけは、介助を必要とする当事者や介助者の要望運動を根気よく
 猪瀬 僕はタイミングよく、その制度を取りこんでしまったということで、親と離れることができたんです。
 田村さんは僕らの気持ちを分かってくれるから、安心して頼れるんです。—今の仕事の中で楽しいことってなん

ーデンの福祉とかは肌で感じています
 が、国民性が余りにも違う。スウェーデンの人はドライなんです。日本人はやさしい。同じものを同じようにできないと思います。
 今の日本の福祉施策をどうやったら変えていけるのかって考えたら、まず「個」を確立させているかどうかですね。
 埼玉県内の他市などからも介助の依頼があるけど、さいたま市以外では二十四時間介助が使えないんです。介助が使えるっていうのは、障害のある人にとっては基本的な権利のようなものです。



です。か。
 田村 折角いっしょに居るんだから友達同士で行こうよって話したんです。僕は猪瀬さんの意思で動いているので、彼ができることまでやってしまったら、猪瀬さんが猪瀬さんでなくなっちゃう。
 それに、何でもハイハイっていうお手伝いさんでも無く、意見もちゃんと伝えますから。
 いっしょに料理を作ったり。この間はパエリアを作ったんですね。漬物も作りましたよね。
 このごろは外食したりすることが多くなっただけですが、猪瀬さんと食べに行って「このさしみうまいですね」とか言うのが楽しいですね。

猪瀬さん、折角いっしょに居るんだから友達同士で行こうよって話したんです。僕は猪瀬さんの意思で動いているので、彼ができることまでやってしまったら、猪瀬さんが猪瀬さんでなくなっちゃう。
 それに、何でもハイハイっていうお手伝いさんでも無く、意見もちゃんと伝えますから。
 知的障害者の参加は初めてだということでしたが、私と娘(当時二十四歳)を含めて車いすの方、視覚障害の方、聴覚障害の方、そしてその方たちの介助者、それに行政の方四人を含めて十四名の団体でした。
 カルガリー、バンフ、バンクーバーと、あくまでも地域で暮らすことにこだわった福祉の在り方に、日本の福祉施策との差を感じていました。
 見学したところにケア付き住宅というのがありました。マンションのような建物でしたが、身体障害の人が障害を持たない人と一緒に街の中で普通の暮らしができることを目的とした集合住宅だということでした。

二十年前に体験したことが目の前にあるという幸せ

浅輪 実は私は二十年前(平成六年)埼玉県社会福祉協議会の埼玉県障害者社会参加促進海外体験派遣事業の参加に推薦されて、十日間カナダ旅行を体験してきました。
 訪問した時、重度の障害を持つ男性が話してくれました。
 「真夜中でもベルを押せば介助の人が来てくれる。困ることは何もない」
 すごいなあ、日本は遅れてるなあ。
 その時はそう思ったけど、猪瀬さんはいま、田村さんというアテンダントを得て、猪瀬さんらしく生きています。二十年という長い時間はかかったけどね。

三国コカ・コーラグループ 自動販売機総合オペレーター



三国フーズ株式会社

私たちは『飲・食』のサービスを通じ、すべての人々へ『うるおい』を提供します。

〈本社〉〒363-8601
 埼玉県桶川市大字加納180番地
 TEL 0120-568-392



みんなでお話そう

楽しかった グラウンドゴルフ大会

さいたま市身体障害者福祉協会

昨年、創立十周年記念行事としてスポーツ大会を行ったところ、会員に好評で毎年行うことになりました。

昨年は残念なことに雨になり、急遽体育館でフライングディスク大会になりましたが、それでも喜ばれました。

共同募金会の助成で市長杯、市議会議長杯、市社会福祉協議会会長杯などの授与も大きな要素です。

本年も台風の影響で前日まで雨が降



り続き、心配したのですが、当日は回復し、ほっとしました。

清水市長も、お忙しいなか駆けつけてくださりあいさつをいただきました。グラウンドゴルフは高齢者にも非常に人気があり、本会も高齢者が多数なためか、盛んです。

午後からの表彰式に市議会議長・市社会福祉協議会事務局長・市長代理として吉川障害福祉課長がそれぞれカップを授与していただき、みな楽しく過ごしました。

高齢者が多く、催しには集まりが悪いのですがグラウンドゴルフは参加者が多い(六十数名)のです。国でも障害者のスポーツを奨励しています。これからも、健康増進のためにも続けて行こうと皆で確認しました。

田口 秀之助

関心の高いグループホーム について考える

さいたま市手をつなぐ育成会

今年の家族支援フォーラムを「Gホーム・ケアホームってなあに？」として開催したのは、「みんなでお話そう」との語り合いの場から出て来たものと



も関心の強い題材について勉強していきたいとの思いから出た企画です。

市障害者福祉課職員の方に制度や支援費用の解説を頂きましたが、数字の羅列に難解な感じが残り残念です。

現場の立場から「障害者支援施設しびらき」支援課長にホームでの生活時間の流れや生活の様子を伺いました。

ホームの暮らしは、家を感じられ利用者の顔が想像出来て参加者の関心が大きいと感じられました。

ホームは、障害者の生活を支えるのに重要になります。しかし、利用できる施設が近隣に少ない事、ホームの利用料が年金で賄えない場合がある事、

病気時の見守り等の心配など取り巻く環境は、安定しないとお話です。

参加者アンケートと語り合いの中からGホーム利用の心配や課題を会と市障害者福祉課の懇談会の実現に繋がる原動力になったと思います。今後も皆さんの意見を発信していけるよう活動して行きたいと思えます。

黒澤 篤子

盛りあがった チャリティコンサート

さいたま市視覚障害者福祉協会

去る十月十五日市民会館おみややにおいて、第二回チャリティコンサートを開催しました。出演は、清水博正さんとコーラス和の会。

清水博正さんは、NHKのど自慢でグラウンドチャンピオンとなり、その後十六才でプロデビュー。現在、若手演歌歌手として活躍中です。甘い語りと伸びやかな歌声で八曲を熱唱。会場ではファンペンライトが輝き、大変盛り上がったステージとなりました。

コーラス和の会は、ボランティア活動を通じて視覚障害者と長く関わってくださっているご縁で、総勢三十六名

第34回 障害者まつり つながろう！ひろげよう！ 楽しもう！

埼玉障害者まつり実行委員会が主催した第34回埼玉障害者まつりは、去る10月20日(日)、埼玉県障害者交流センターで開催されました。

主な企画では、県民福祉講座、すまいの場大討論会、美術展といった硬派のものから、まつり定番の大道芸、ベリーダンス、車椅子ダンス、人形劇、うたごえコーナー、おぼけ屋敷。そして人気一番の女子プロレスまで、幅広い内容で取り組まれています。



当日は、朝から本降りの雨というあいにくの天気。しかも、数々のイベントや模擬店などが一番にぎわい、盛り上がる時間帯のお昼前後には、土砂降りの風雨になってしまい、屋外の模擬店では周りにワゴン車を並べたり、ブルーシートで囲ったりと、雨よけに大奮闘という騒ぎでした。

この悪天候の中にもかかわらず、三千百人もの参加があり、障害者まつりに対する障害者・家族、関係者の皆さんの熱い思いが感じられる一日となりました。

最後になりましたが、さいたま市障害者協議会として埼玉障害者まつりへの協賛金をいただき、心よりお礼を申し上げます。

障害者(児)の生活と権利を守る

さいたま市民の会 平林 彰

(埼玉障害者まつり実行委員会

副実行委員長)



のさわやかな歌声がコンサートの花となり、マリンバやパントマイムも加わり、見ても聴いてもステキな心地よいひと時を演出してくださいました。
台風二十六号の迫ったあいにくの天気にも関わらず六百名以上のご来場を

さぎ山記念公園でのパーベキュー大会を、今年も6月1日に、参加者52名で開催しました。福祉法人格を取得した翌年から、年に一度の恒例行事で、十年近く続いています。
メインは北海道直送のジンギスカンと闇鍋で、他には焼きそば、鶏手羽焼

つながりを求めて
パーベキュー大会
さいたま市精神障害者家族会連絡会
(もくせい福祉会)

藤崎 明美

いただき、心より感謝申し上げます。
収益金・寄付金は、平成二十七年二月に開催される、関東で最も大きな視覚障害者福祉大会である、日本盲人会連合関東ブロック協議会さいたま市大会実行委員会に寄贈されました。

き、一夜干しのイカや魚、野菜もたっぷり、最後はいつもマッシュマロ焼き。今年には鴨鍋やスイカの差入れもあり、飲み放題(アルコールは出しませんが)食べ放題で参加費は一人五百円！
関係者が気楽に交流できる行事を始めたイベントですが、賛助会員の男性陣が鉄板前に陣取り汗だくでの大活躍。名物の闇鍋はメンバーの分担で、いつもラーメンで味を決めますが、みんなワイワイと味見で賑やか。
家に籠っていた当事者が「食べるだけなら」と親に連れられて参加し、メンバーと職員の楽しい様子を見て、単に楽しいだけではない効能も。
参加者は、メンバーの友人、家族の子や孫、ボランティアさんの家族、そのまた知人、つまり誰でも歓迎で、そ

うやうやしく繋がりを広げて行くことで、精神障害者への理解や支援の輪が広がることを願い、また来年もやります。
齋藤 光恵



どこでもだれでも安心して住める埼玉へ

埼玉障害者フォーラム結成に向けて
埼玉県障害者協議会 副代表理事 新井 真一

2006年4月、原則一割の応益負担、施設の日払い、障害程度区分などを柱とした「障害者自立支援法」が施行され、障害者や家族、施設関係者からこの法律では「地域でくらしにくい」「施設運営がでない」など、悲痛な声が大きくなる中で、制度の改善を求められて日比谷公園での集会や厚生労働者との交渉など、ねばり強い運動が続けられました。

こうした中で、07年には「特別対策として、08年には「緊急措置」と、2度にわたり利用者負担の軽減など改善を実現し、利用者負担でいえば90%の障害者が利用料なしで制度を利用することができるまでになりました。

この運動は、全国の障害者団体が障害の種別を超え、意見の違いを乗り越えて、なんとしても、障害者自立支援法を改善したいという想いを基に「力」を合わせたことが大きな要因になっています。

積み重ねた力で継続した運動を
こうした全国の動きに併せて埼玉で



も、そのときどきごとに実行委員会を組織し「もうやめてよ！障害者自立支援法！だれでも、どこでも安心して住める埼玉に！」など、多くの障害者関係者が集い、埼玉県民集会や埼玉フォーラム、学習会などを開催してきました。

この積み重ねた集いの中で、埼玉にも、継続して活動できる場が必要ではないか、という声が上がリ、県民集会などに集まった実行委員会を中心に「埼玉障害者フォーラム(仮称)」の結成にむけて準備をすすめています。

4月1日からは「障害者総合支援法」が施行され、6月19日には「障害者差別解消法」が成立、9月27日には「第3次障害者基本計画」が閣議決定されるなど、障害者福祉を取りまく状況もめまぐるしく変化していきます。

一方で、市町村事業が多くなる中で市町村格差も広がっています。こうした状況に、私たちはどう対応するのかも大きな課題であり、そのための組織が必要になります。

共通した願いで、協同の運動を

障害者が地域の中でも、施設の中でも豊かな生活が営めるようにしたい、この想いは障害者や家族、施設関係者などに共通した願いです。

この願いを実現するため、結成される埼玉障害者フォーラムでは、これまで培ってきた障害の種別、意見の違いを超えて、共通する願いを大切に協同した運動をすすめたいと思います。

「数は力」も一つの真実です。手をつなぎ、知恵を寄せ合い、力を出し合える埼玉障害者フォーラムをめざしたいと思います。

編集後記

さいたま市障害者協議会は、障害者連合会から起算すると十一年の年月を経過したことになります。

初期のころに活動していたパーキンソン病友の会、銀鈴会など懐かしい会の名が思い出されます。二十団体から十六団体になって、団体紹介なども一回りしてしまいましたので、「あうん」も当面は年一回の発行とすることになりました。

それはさておき、あうん掲載可能のギリギリのところまで十一月八日、青空号に乗って、晩秋の県北を目指すバス旅行を実施。盲人ホームひとみ園見学と小川町での張り子の絵付けなどを楽しんできました。

うどん、おいしかったなあ (A)

さいたま市障害者協議会
会報あ・うん第19号
発行 さいたま市障害者協議会
会長 浅輪 田鶴子
編集 さいたま市障害者協議会広報委員会
〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-213-1
大宮ふれあい福祉センター4階
TEL 048-653-7271
FAX 048-653-7341
http://www.saitama-planet.com/
e-mail saitamacity-handynet@bz03.plala.or.jp

この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。